

# 医療法人社団寿量会 熊本機能病院 が担う役割について

平成30年11月12日

医療法人社団寿量会



# 1 自施設の現状 憲章・理念・基本方針

## ➤ 憲章 私たちはQOLの向上とノーマライゼーションの確立への道を歩みます

寿命グループは「social inclusion(社会的包摂)」の構築に貢献する。

### ➤ 熊本機能病院の理念

私たちは人間の尊厳を守り健康生活への奉仕をいたします。

### ➤ 基本方針

#### 患者さんのために For Patients

##### 一貫した医療

24時間体制、救急医療から疾病治療とリハビリテーション医療を通して在宅生活までの一貫した医療を実践します

##### パートナーシップ

私たちは患者さんとのパートナーシップを最も重視します

##### 高度治療

疾病の高度治療の充実をはかります

##### 生活自立支援

患者・利用者の生活自立への支援を行います

##### 個人情報の保護

職員さんは職務上知り得た情報を業務上の目的外に利用することはせず個人情報を守ります

#### 地域のために For Community

##### 地域連携

保健・医療・介護・福祉・地域生活の連携をはかります

##### 社会還元

健全経営の維持に努力し、その成果を医療活動を通して社会に還元します

##### 「医療の谷間」解消

地域における「医療の谷間」の解消への努力をします

#### 職員さんのために For Staff

##### 教育・研修

医療充実のための教育・研修・研究事業を行います

##### 働きがいのある職場

職員さんが病院と共に成長できる働きがいのある職場風土を育むことに努めます

# 1 自施設の現状 基礎情報

## ▶ 許可病床数 395床

急性期一般入院料5 176床、障害者施設等10対1入院基本料 33床、回復期リハビリテーション病棟入院料(1) 131床、地域包括ケア病棟入院料2 55床

## ▶ 主な指定・事業

救急告示病院 急性心筋梗塞急性期拠点病院 開放型病床

熊本市北3地域包括支援センター(熊本市高齢者支援センターささえりあ清水・高平)、熊本地域リハビリテーション広域支援センター 熊本医科歯科病診連携事業 へき地医療 筋電電動義手の装着訓練等の実施医療機関

## ▶ 主な診療体制

整形外科、形成外科、小児形成外科、脳神経外科、血管外科、麻酔科、放射線科、循環器内科、脳神経内科、リハビリテーション科、リウマチ科、内科、救急科、外科、皮膚科

救急センター、切断指肢再接着センター、農業外傷センター、四肢外傷センター、循環器センター、総合血管センター、国際唇裂口蓋裂センター、アノマリーセンター、神経生理センター、地域医療連携 画像診断センター、神経難病センター、スポーツ外傷センター、人工関節センター、骨粗しょう症センター、

## ▶ 主な医療機器・設備

MRI 2機、心カテ装置 1機、手術室 8室、人工関節ナビゲーションシステム、神経生理センター、総合リハビリテーションセンター、自動車運転リハビリテーション、等

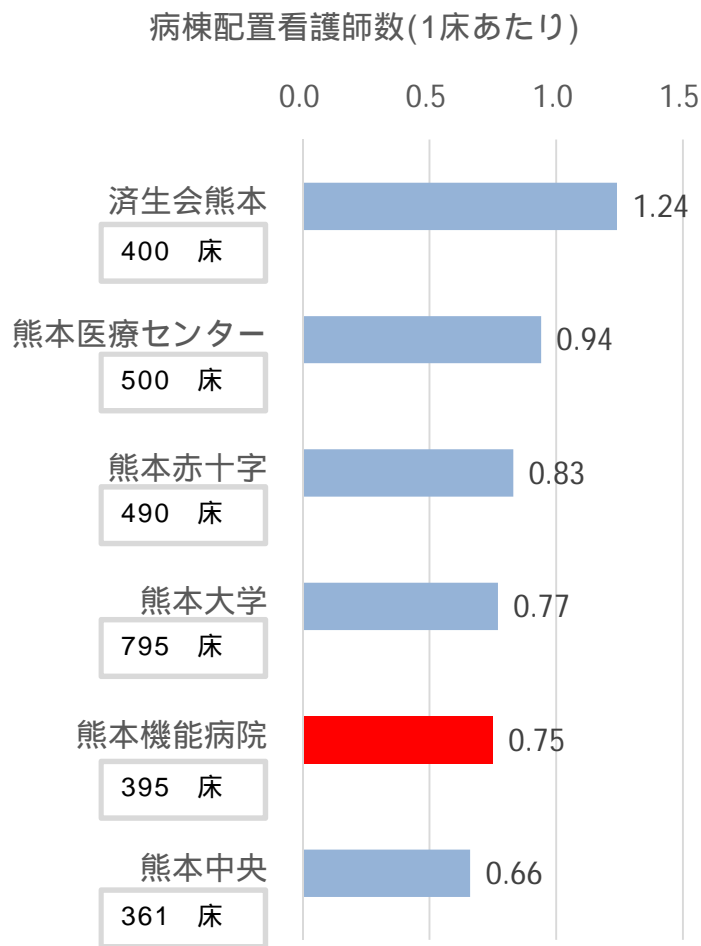
## ▶ 職員数 700名

医師 49名、看護師 298名、准看護師 1名、救命救急士 1名、看護助手(ケアスト) 34名、介護福祉士 8名、薬剤師 14名、臨床検査技師 21名、診療放射線技師 14名、臨床工学技士 3名、理学療法士 77名、作業療法士 51名、言語聴覚士 21名、リハビリ助手 2名、歯科衛生士 1名、管理栄養士 8名、社会福祉士 11名、研究員 2名、医師事務作業補助者 17名、事務 67名

# 1 自施設の現状 基礎情報

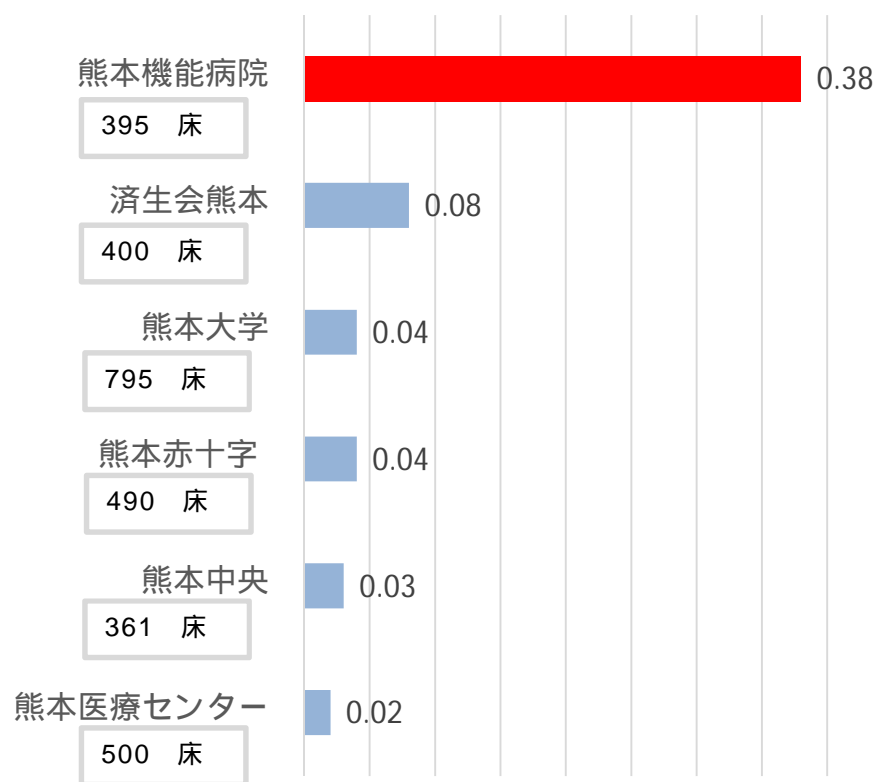
## 許可病床あたりの職員数

単位：%



## 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 数

0.00 0.05 0.10 0.15 0.20 0.25 0.30 0.35 0.40



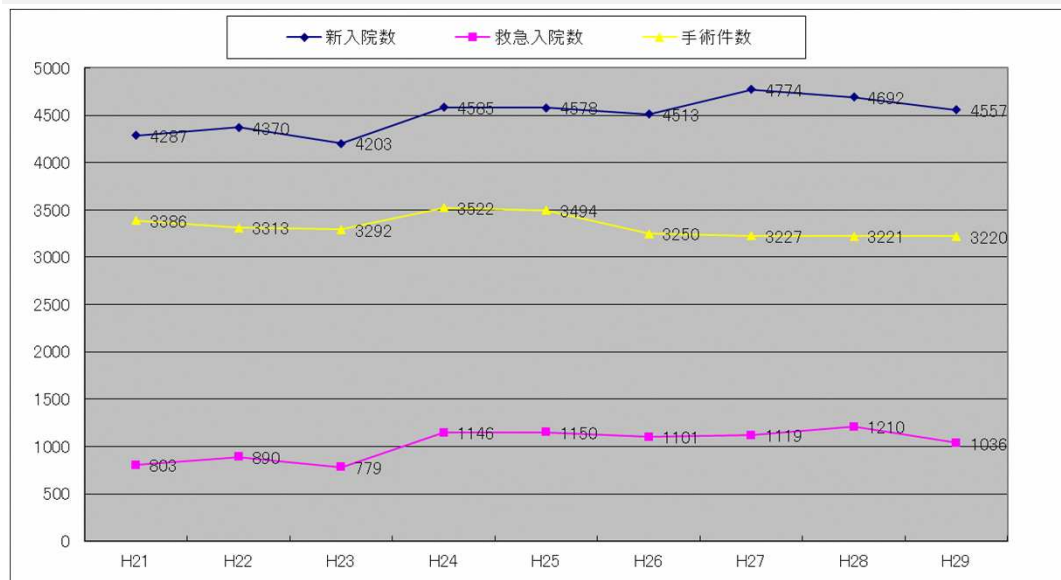
- ・ 出所：2016年度「熊本県における医療機能ごとの病床の現状」の2016年7月1日時点の各施設の職員数を許可病床数で除した
- ・ 対象施設：300床以上で病床機能報告にて高度急性期機能を有すると報告した熊本県の病院 との比較

# 1 自施設の現状 診療実績

## ▶ 診療実績

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院患者数		4,767名	4,708名	4,557名
入院経路割合	外来	61%	62%	63%
	救急外来	24%	25%	22%
	転院	15%	13%	15%
1日平均外来患者数		375名	404名	414名
救急車受入台数		1,287件	1,442件	1,326件
手術件数		3,227件	3,221件	3,220件
人工関節置換術		260件	221件	213件
人工股関節置換術		203件	223件	228件
口唇口蓋裂形成術		101件	111件	105件

### 入院患者数等の推移

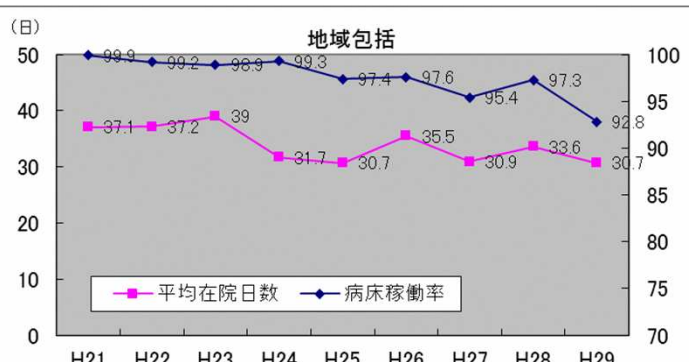
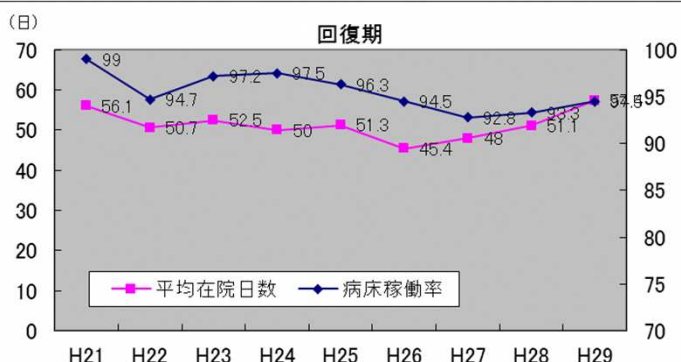
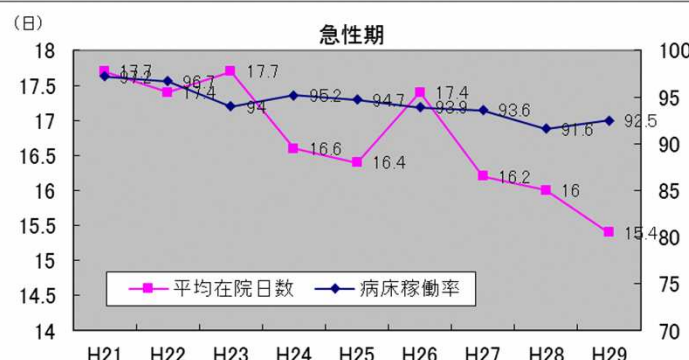
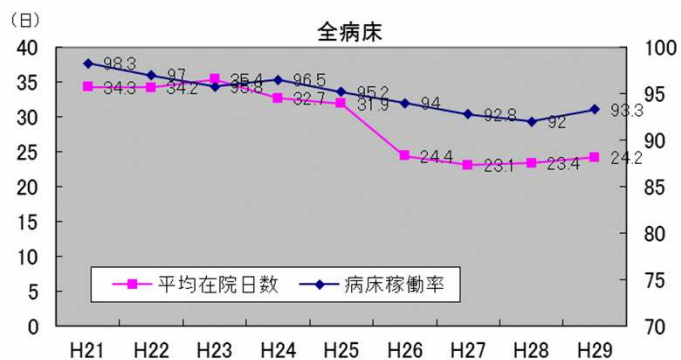


# 1 自施設の現状 診療実績

(平成29年度 実績)

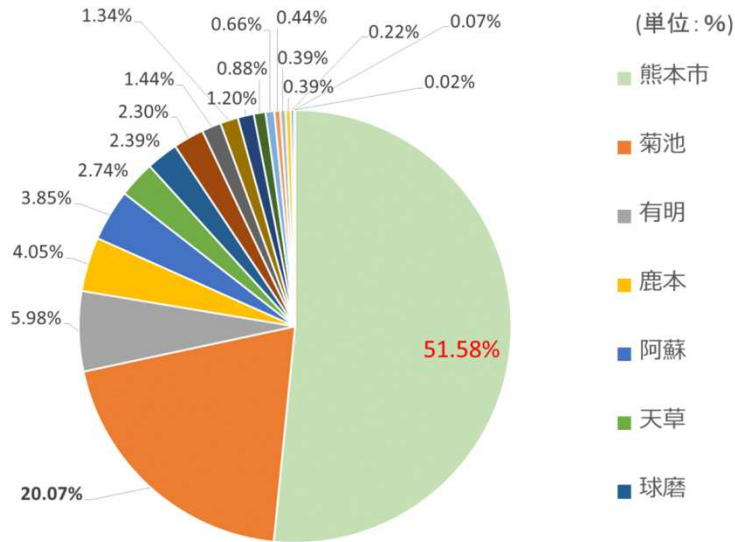
	病棟数	病床数(床)	平均 在院日数	1日平均 入院患者数	在宅 復帰率
急性期一般入院料5	4	176	15.4	162.4	93.7
障害者施設等10対1入院基本料	1	33	50.3	31.6	79.9
回復期リハビリテーション病棟入院料(1)	3	131	57.4	122.7	88.1
地域包括ケア病棟入院料2	1	55	30.7	55.8	94.3
全病床		395	24.2	372.6	92.9

平均在院日数および病床稼働率の推移



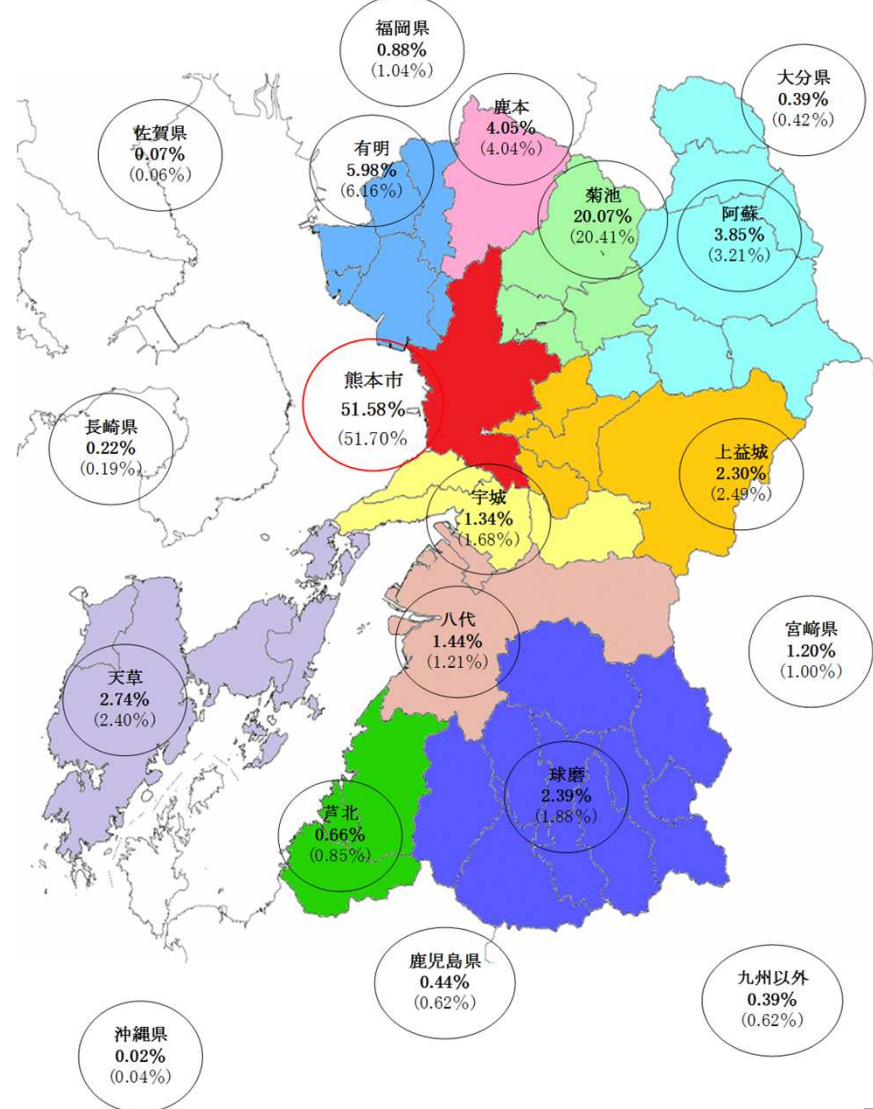
# 1 自施設の現状 診療実績

地域別患者割合



入院患者診療圏

4-1 平成29年度 退院患者における診療圏分析 ( )内は平成28年度



入院患者の年齢層分布



# 1 自施設の現状 自施設の特徴

## 専門性の高い地域密着病院として

専門性の高い医療を提供しながら「ケアミックス病院（急性期・回復期）」として地域医療に貢献する。

### マイクロサージャリー

昭和56年の開院当時以来、農業外傷等に対し積極的に取り組み、院長を中心に5名の整形外科上肢班医師で診療にあたっている。院内には専用のトレーニング環境を整え、いつでも利用することができるほか、西日本では唯一25年にわたり、マイクロサージャリーワークショップを開催し、若手の育成に努めています。

手外科手術2017年実績 総件数 940件 (全国第9位)

読売新聞 全国版  
病院の実力 (2018.6.20掲載データ)



### 人工関節置換術(膝・股)

マイクロサージャリー同様、開院以来の歴史を持つ。現在は6人の整形外科下肢班医師を中心に「人工関節センター」として年間500件以上の実績がある。2年前には人工関節ナビゲーションシステムを導入し、より正確な手術を行う環境を整えました。

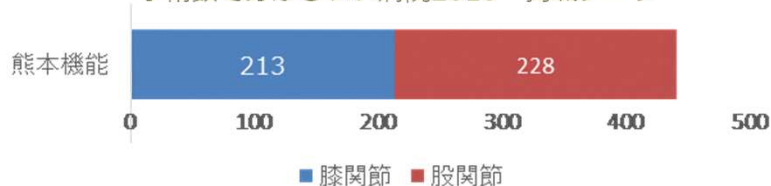
#### 人工股関節置換術 手術件数

全国24位 (前年30位)  
九州・沖縄 3位 (熊本県1位)

#### 人工膝関節置換術 手術件数

全国 41位 (前年17位)  
九州・沖縄 8位 (熊本県2位)

週刊朝日MOOK (朝日新聞掲載)  
手術数で分かるいい病院2018 掲載データ





# 1 自施設の現状 自施設の特徴

## 先天性疾患（小児形成外科）

「唇裂口蓋裂」、「多合指(趾)症」等の先天性疾患に対し、地域の産婦人科、小児科、皮膚科、整形外科等との診療連携を密に、早期からの適切な治療を行う。特に「唇裂口蓋裂」には形成外科、言語聴覚療法課、矯正歯科のチームでの診療を行い、これまでに1000名以上の治療にあたる。

### 「唇裂口蓋裂先天性疾患」の治療実績数 全国6位

順位		病院名	治療実績		
			合計件数	手術あり	手術なし
1	東京都	昭和大学病院	464	434	30
2	千葉県	千葉県こども病院	134	134	-
3	神奈川県	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター	116	104	12
4	京都府	京都大学医学部附属病院	113	113	-
5	石川県	金沢医科大学病院	104	104	-
6	熊本県	<b>熊本機能病院</b>	<b>103</b>	<b>103</b>	-
7	埼玉県	埼玉県立小児医療センター	101	101	-
8	広島県	地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院	98	98	-
9	東京都	東京都立小児総合医療センター	97	97	-
10	北海道	北海道大学病院	73	73	-

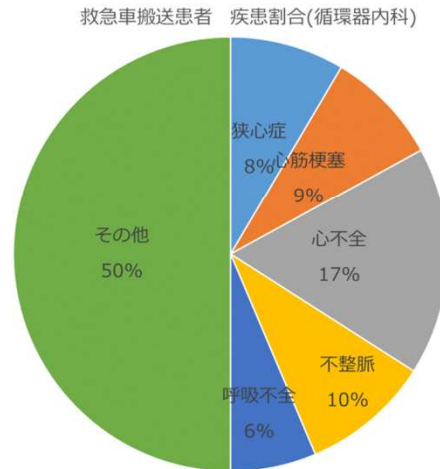
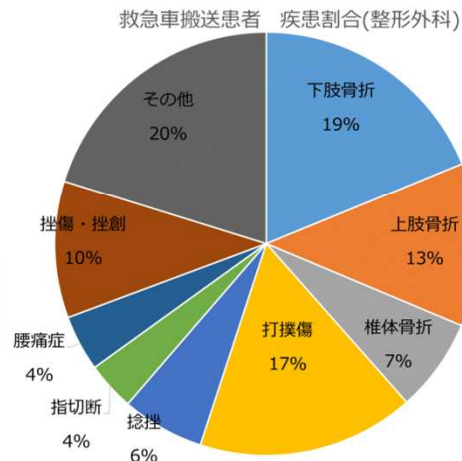
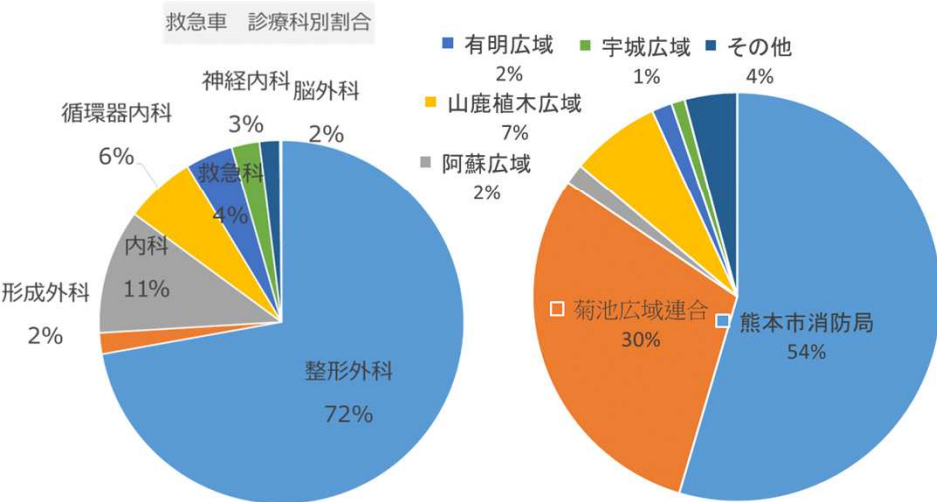
DPC対象病院・準備病院・出来高算定病院の統計  
(2016年4月～2017年3月退院患者)

# 1 自施設の現状 自施設の特徴

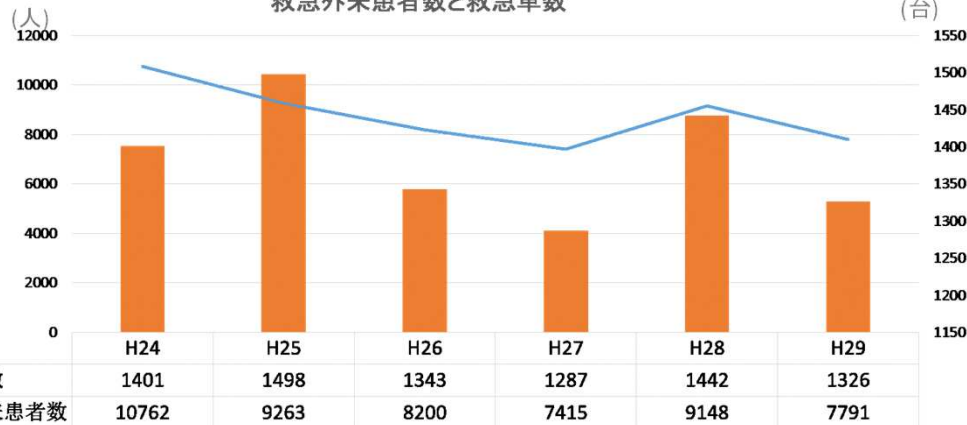
## 救急科

救急センターを中心として24時間体制で診療を行う。2名の救急専門医と各診療科の医師が連携し、専門性の高い救急医療の提供を目指している。

救急車消防署別 割合



救急外来患者数と救急車数



1日平均 救急患者数 21人	2017(H29)年度実績
1日平均 入院患者数 35人	
ドクターヘリ受入 9件	

# 1 自施設の現状 自施設の特徴

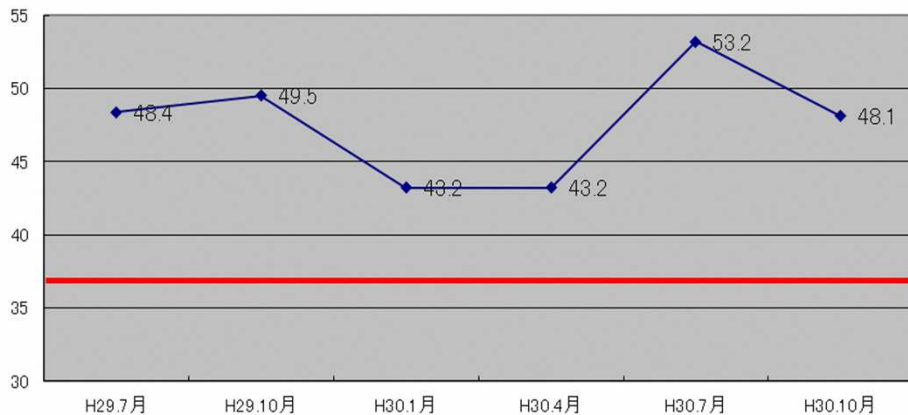
## 回復期リハビリテーション

2018年(H30)の診療報酬改定で新たに設けられた回復期リハビリテーション入院料1を全131床で届出、より重症患者の回復期リハビリテーションに取り組んでいる。

### 実績指数

ADLスコアの伸び÷(在等日数÷上限日数) 37以上

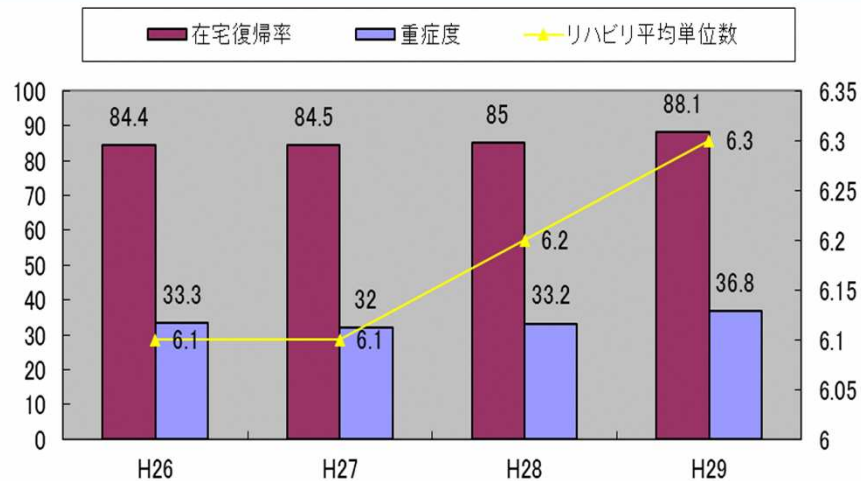
実績指数



### 回復期リハビリテーション病棟入院料1

在宅復帰率(自宅等へ退院する割合) 70%以上

重症者割合(日常生活機能評価10点以上の割合) 30%以上

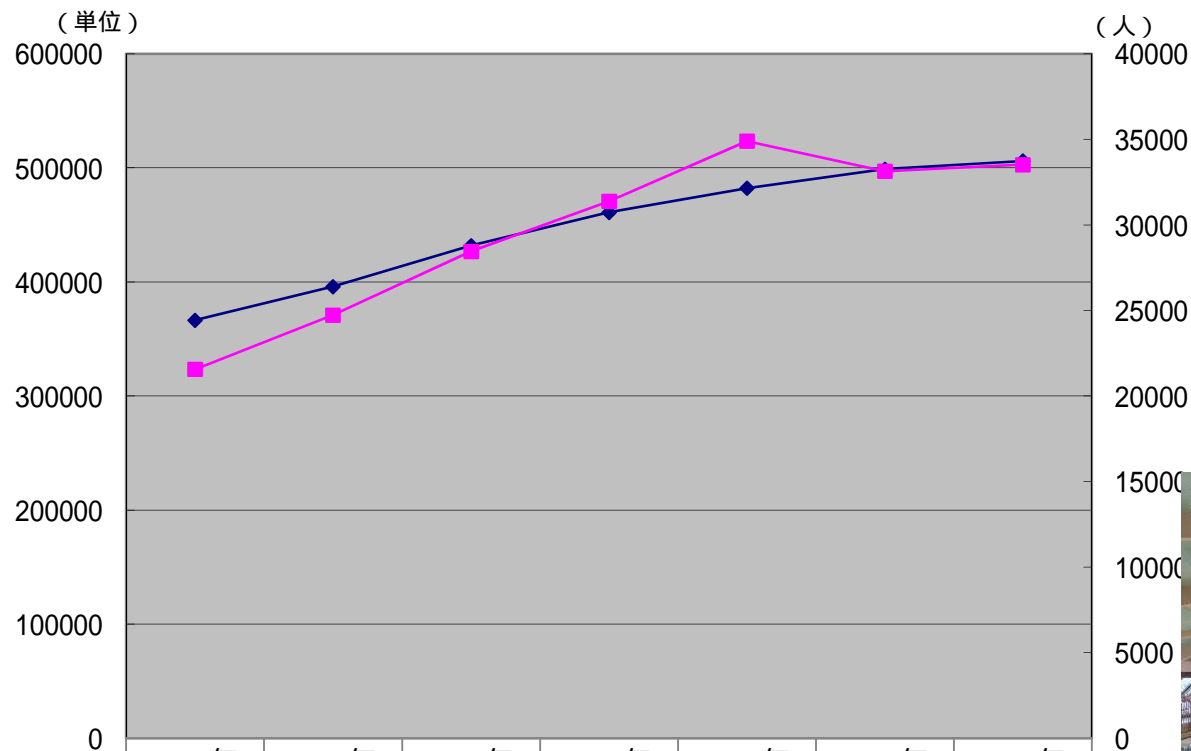


# 1 自施設の現状 自施設の特徴

## 総合リハビリテーション

1981年（S56）の開院時からリハビリテーション部門を有し、多職種チームによる「身体機能の回復」「日常生活活動の向上」「復学・復職」「スポーツ復帰」など、質の高いリハサービスの提供を目指している。リハビリテーション専門医数は6名と、本邦で単施設最多の専門医数である。

総合リハビリテーション部 総単位数および総出勤者数



◆ 総単位数	366432	395880	431820	460966	482238	498903	506000
■ 総出勤者数	21564	24728	28451	31378	34895	33141	33522



## 熊本・上益城構想区域の5疾病に係る拠点病院 「急性心筋梗塞急性期拠点病院」

平成 9年5月 循環器センターを開設

平成12年4月 熊本加齢医学研究所の開設し、高齢者における循環器診療の研究を行っている

研究成果はCirculation Journal Award 2017 First Placeを受賞した。

平成28年 総合血管センターを発足。血管外科、形成外科との連携診療を開始した

心臓リハビリテーションを積極的に行い、年間818名（H29）に施行

### 平成29年度実績

心臓カテーテル件数(件) および主な循環器疾患入院患者数(人)

心臓カテーテル件数	202	急性心筋梗塞	19
		狭心症	88
		心不全	102

# 1 現状と課題 他施設との連携

急性期	一般・回復期	生活期
三次救急	熊本機能病院 ・ 2次救急 ・ 人工関節 ・ リハビリテーション	在宅・居宅系施設 ・ 他機関ソーシャルワーカー ・ ケアマネージャー

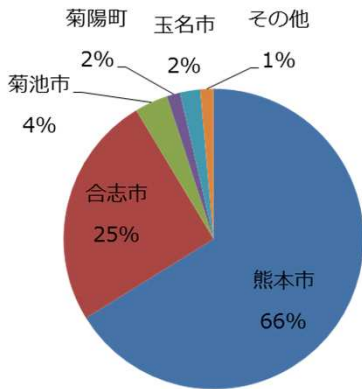
連携Ns(3人)

MSW(11人)

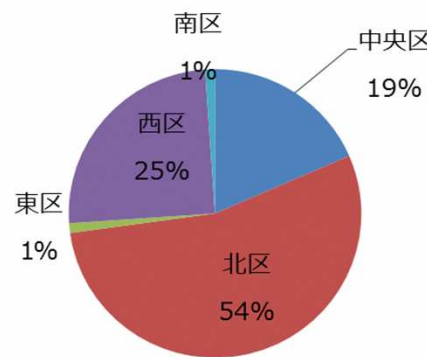
**前方連携**  
 ・ 転院相談の受付  
 ・ 医療機関への訪問  
 ・ 搬送

**後方連携**  
 ・ 療養型病院  
 ・ 社会復帰支援  
 ・ 居宅介護支援事業所  
 ・ 居宅系施設（介護保険施設）  
 ・ 社会復帰支援  
 ・ 地域包括支援センター

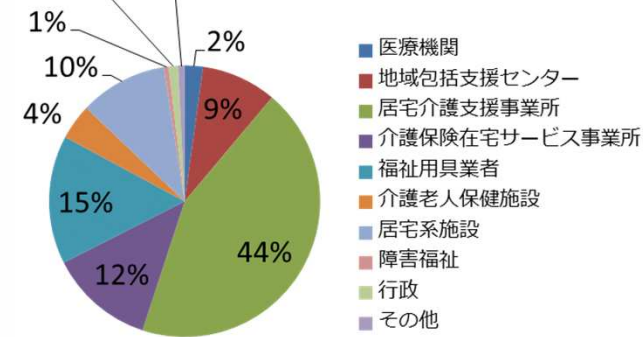
地域包括支援センター連携先地域割合



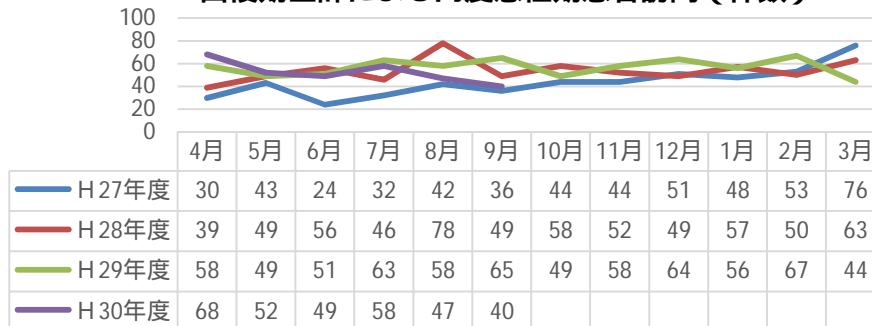
平成29年度ささえりあ（熊本市）連携先地域



連携先機関種別割合



回復期医師による高度急性期患者訪問（件数）



# 当法人の地域包括ケア

高度急性期  
急性期



急性期  
救急センター



慢性期病床



回復リハ病棟  
地域包括ケア病棟

介護老人保健施設  
清雅苑



訪問診療

介護予防・  
体力作りセンター

訪問看護

訪問リハ

通所リハ

クリニック

在宅

通所介護

ショートステイ



## 2 今後の方針

### ▶ 地域において今後担うべき役割

#### 地域包括ケアへの取り組み

- ・高齢者に特に必要とされる地域医療の提供（救急、リハビリテーション、介護、地域包括ケア病棟）
- ・高齢者の低栄養、口腔機能、運動機能、認知機能の低下等へのさらなる充実

#### 救急医療体制の充実

- ・地域に必要とされる救急体制の充実（医師、診療科、スタッフ）
- ・適切な医療を提供するために、ICTを活用した地域のクリニック、施設との連携
- ・在宅患者の急変時、かかりつけ病院や診療所と連携の上、救急医療体制の充実（ナースカー運行を開始した）

#### 高度医療の提供

- ・人工関節置換術（TKA、THA）、切断四肢再接着術（マイクロサージャリー）、形成外科（口唇口蓋裂、多指(趾)少指(趾)症）等の医療提供体制の維持、拡大
- ・高度な医療提供のために看護師、薬剤師、リハビリスタッフ等の人材教育・研修・育成を行い、質の高い医療と看護、環境を提供する

#### リハビリテーション

- ・地域に密着しつつ、より高度なリハビリテーション提供のために、ロボットリハ、急性期集中リハや目的志向型リハを充実させ地域包括ケアに貢献する



### 3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### ➤ 4 機能ごとの病床のあり方 その1

単位：床

病床機能	2017年 (平成29年)	2023年 (平成35年)	2025年 (平成37年)
高度急性期			
急性期	176	176	132
回復期(障害者 施設等一般含)	219	219	263
慢性期			
その他			
合 計	395	395	395

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### ➤ 4 機能ごとの病床のあり方 その2 - 1

急性期：

24時間体制で、救急医療からリハビリテーション医療を通して在宅医療までの一貫した医療を実施する。各科の専門的な治療の提供、切断四肢再接着(マイクロサージャリー)、人工関節、口唇口蓋裂等に力を入れた新しい手術を行う。

回復期：

リハビリ、介護の先駆的取組を行う。また、地域住民、他施設から選ばれるリハビリテーションを探求し、訪問リハビリテーションも積極的に取り組み、「地域包括ケアシステム」の構築に貢献する。

障害者施設等一般：

重度の障害をお持ちの方や神経難病の方を対象にADL（日常生活動作）の維持とQOL（生活の質）の向上を目標とし、多職種の医療スタッフと、退院後、在宅での生活の不安を解消できるようサービスを提供していく。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### ➤ 4 機能ごとの病床のあり方 その2 - 2

開設当初から「救急からリハビリまで」を目指し、現在「救急から在宅まで」を理念としている。また、医療の谷間解消方針のもと、へき地医療を続ける。1993年以来、中国から医師の研修受け入れを行い、国際的な医療交流も続ける。

昭和56年	熊本機能病院 開設
昭和57年	救急告示病院 認定
昭和61年	リハビリテーションセンター・臨床神経生理検査センター 開設
昭和63年	熊本唇裂口蓋裂センター（現：国際唇裂口蓋裂センター）開設
平成元年	熊本体力研究所 開設
平成6年	介護老人保健施設 清雅苑 開設（熊本県第1号の老人保健施設）
平成9年	疾病予防施設 熊本健康・体力づくりセンター開設
平成12年	熊本加齢医学研究所・神経難病センター 開設 有明海リハビリテーションクリニック及び有明海通所リハビリテーションセンター開設
平成13年	熊本圏域地域リハビリテーション広域支援センター 熊本県より受託
平成16年	創傷ケアセンター 開設
平成20年	地域医療連携画像診断センター 開設
平成23年	天草市立御所浦診療所 医師派遣開始 ～ 平成24年8月
平成26年	天草市立牛深市民病院 医師派遣開始 ～ 平成27年3月
平成29年	産山村診療所 医師派遣開始 ～ 現在

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### ➤ 診療科の見直し

	現時点 (2018年11月)	2025年	理由・方策
維持	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 整形外科</li><li>・ 形成外科</li><li>・ 小児形成外科</li><li>・ 救急科</li><li>・ 外科</li><li>・ リウマチ科</li><li>・ 皮膚科</li><li>・ 神経内科</li><li>・ リハビリテーション科</li><li>・ 脳神経外科</li><li>・ 内科</li><li>・ 循環器内科</li><li>・ 血管外科</li><li>・ 麻酔科</li><li>・ 放射線科</li></ul>		
新設		変わらなし	
廃止			
変更・統合			

# 3 具体的な計画 (2)数値目標

	現時点(2018年9月)	2025年
病床稼働率	89.8%	90.0%
紹介率	22.8%	40.0%
逆紹介率	19.7%	50.0%

紹介率・逆紹介率の計算方法

紹介率・逆紹介率の用語の定義 (地域医療支援病院の要件に基づく)

$$\text{紹介率} = \frac{\text{紹介患者数}}{\text{初診患者数}}$$

1. 初診患者数  
初診料算定患者数 - (救急搬送患者数 + 休日又は夜間に受診した患者数)

2. 紹介患者(初診患者に限る)  
開設者と直接関係ない他の病院又は診療所から紹介状により紹介された者の数

$$\text{逆紹介率} = \frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者数}}$$

3. 逆紹介患者数
  - ・他の病院又は診療所に紹介した者の数
  - ・診療に基づき他の機関での診療の必要性等を求め、患者に説明し、その同意を得て当該機関に対して、診療状況を示す文章を添えて紹介を行った患者 (開設者と直接関係のある他の機関に紹介した患者を除く)

## 3 具体的な計画 (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

地域住民、他施設から選ばれる医療を提供できる体制作り

- ・ 専門性の高い医療の提供、手術を始め安全・安心な医療を提供する
- ・ 高齢者医療と疾病予防に対応
- ・ リハビリテーション、認知症対応病棟など、専門性の向上と確立
- ・ 二次救急から亜急性期、回復期に対応した病棟種（適正数）の確保

地域の医療施設、介護施設等との連携強化

- ・ 地域医療連携室の強化（定期的な交流会、勉強会の開催、自院紹介）
- ・ ICT、シームレスパス等を用いた患者情報の共有
- ・ ナースカーなどを用いた地域との連携強化

課題

職員の高齢化を見据えた若手職員の育成

安定した経営戦略（経営基盤）の確立（診療報酬改定、他医療機関との競合）

働き方改革に対応した効率的な勤務管理システムの確立

## 4 その他特記事項

今後、より地域で信頼される病院を目指して、旧本館解体、リハビリ病棟などの新築や高齢者施設の建築などの地域包括ケアを担うべく着実に投資を行うために、安定した経営のもと未来への投資分の利益を確保し、専門性の高い地域密着型病院としての向上を行う。